



# HOTEL “IL SERENO LAGO DI COMO”

イルセレーノ ラーゴ・ディ・コモ

ADF リサーチレポート  
Hotel “Il Sereno Lago di Como” (ITALY)  
2017/08/08  
井上

# STORIES & LOCATION

## 最高級スモールラグジュアリーホテル

ミラノより北に約 44 km コモ湖畔に 2016 年新規オープンした  
建物、内装共パトリシァ・ウルキオーラ設計によるラグジュアリーリゾートホテル”イルセレーノ ラーゴディコモ”  
直訳では”落ち着いた””静かな”という意味である。  
建物はコモ湖畔ぎりぎりの傾斜地に建てられた既存ホテルを壊し同敷地に新築で建てられた。6 層。  
すべてが湖畔を望めるスイートルームでの構成（計 30 室）。計画 5 年 予算計 4000 万ユーロ。  
セレーノホテルグループは現在計 4 件 Luis Contreras（ベネズエラ系イタリア人投資家）オーナー  
元タカリブ海にあるフランス領の島 St.Barth に同ホテルを 2 件開業、大成功の後、第二弾のプロジェクトとしてこのホテルに着手。  
最高級スモールラグジュアリーホテルチェーンを目指している。  
グループすべてのホテルが Leading Hotels of the World と Virtuoso に加盟



### コモ湖について

北イタリアアルプスの麓エリアには  
大きな湖がいくつか点在しているが、  
中でもコモ湖は風光明媚であり、  
かつてローマ帝国皇帝が保養のために  
訪れていたと言われている程  
2000 年以上の歴史を誇る由緒正しきヨーロッパの保養地。  
ヨーロッパ各王室貴族、富豪、ハリウッドスター、  
サッカー選手等の豪華な別荘が立ち並んでいる。  
全長 約 46km（南北に細長い）  
面積 約 146 ㎡（琵琶湖の 1/4 強）  
ミラノから北へ約 44 km  
電車で 45 分程度で湖畔最南部



Villa Pliniana



新古典主義デザインの内装に  
コンテンポラリーデザインの家具が並ぶ



オーナーのコントラスファミリーがこのホテルとは別に、約 1 km 先にある  
約 500 年前からの歴史あるヴィラ、Villa Pliniana（ヴィッラ プリニャーナ）を同じウルキオーラデザインディレクションのもと改装を行い、  
姉妹ホテルとしてほぼ同時に 2 つのホテルをオープン。  
ヴィラはイベント会場としての集客に軸を置き 500 人収容のガーデン、200 名収容のボールルームを併設、  
この 2 つのホテルは専用ボードで繋がれ、イベント / 宿泊に連携体制での運営を行い、  
オープン早々 Facebook CEO マークザッカーバークが Bruno Mars を呼びプライベートライブを楽しんだことは地元新聞でも報道された。

# APPROACH ~ホテルフロントまでに辿り着く長いアプローチ~

## 専用飛行機・専用ボートでのお出迎え

ホテルまでのアクセスとしてHPにはまず近郊空港からのヘリ送迎が記載されている。次にコモ中心街からのボート、最後に車である。これらホテル所有のヘリ、ボートはすべてホテル仕様にカスタムされたもので、内部インテリアはウルキオーラによってデザインされているとのこと。すなわち顧客は移動元からホテルの世界感を享受できるということである。ボートはボート界のフェラーリと言われる約250年続くRIVA社製と豪華。

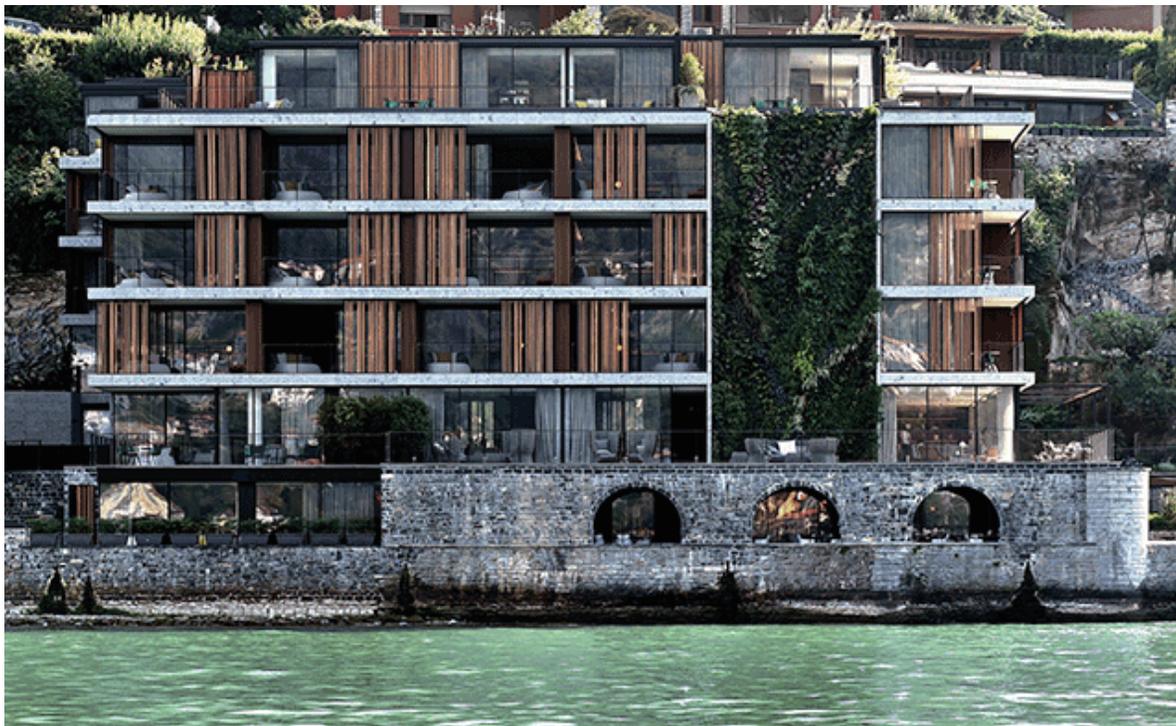


エントランス  
デザインはシンプル  
扉の高さは6mほどある。  
建物山側の端にある。



エントランスゲート

ゲートからのアプローチ  
ゲートを抜け、ホテル建物までのアプローチが続く。  
車での来訪者はゲート脇のパーキングに駐車し  
以後このアプローチは徒歩となる。  
脇のランドスケープは  
植物学者パトリックプラン作。



ホテル正面からの全景

### 外部でも内部でもない、中間部の豊かさ

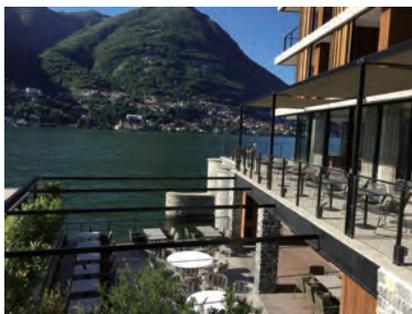
建物は湖畔の傾斜地に立っている為、アプローチからエントランス、ロビー、ラウンジは2階、1階は湖水面に近いレベルでレストラン、プール、プライベートビーチ、ホテル専用ドックがある。上層部3-6階はベントハウスを含めた客室、山の斜面に沿った長方形の建物。建物の山側面以外の三面、すべての階層に室内と屋外の間 ゆったりとしたテラス部が設けられ非常に開放的でテラス部スペースの豊かさでラグジュアリー感がアップしている。とはいえ、一番のラグジュアリーな演出はどこからでも見える風光明媚なコモの景色である。外装と内装をほぼ同じ素材の仕上としているので、テラス部分を介し内部と外部が連続することにより一つの空間として認識させる設計意図が感じられる。1Fの唯一既存で残されたドックも室内と室外の境界として、レストランのテラス席としてうまく活用している。これが残ったことで周辺環境 / 風景とより馴染んでいる。地元産の石だそうだ。

## EXTENSION AND CONTINUATION OF INTERIOR TO EXTERIOR

～外部と内部の連続性～

豊かなテラス部

建物内部から外に出る通路



各階中間部



既存ドック  
レストランとして改修。これも中と外の間の空間



上階階に取り付けられた木製ルーバー  
可動式の為日差しの向きによって移動可とのこと



## 2F LOBBY & BAR

### アットホーム感のあるメインロビー

アプローチスペースと相対すると面積的にはかなり小さいが、中庭が設けられていることもあり印象として狭いという感じは受けない。長いアプローチを歩く間、わくわくとした期待感が楽しめたのも内部に入ってから狭い印象が薄く要素ではないのかも感じる。内装的には我が家よろこぞ！的なアットホーム感のある空間であるが、一つだけ置かれたグラスイタリヤのサイドテーブルが現在を表現するに3役くらい担っているようで、このあたりがウルキオーラの上手いところであるなと感心。中庭にある植物はパトリックプラン作オブジェ。写真右奥からバー、ラウンジスペースと続く。



メインロビー



ロビーカウンター

### バーカウンター

ロビーからそのまま間仕切りもなく奥に進むとカウンタースペースとラウンジエリアとなる。床はロビーから続く同じ石、柱と壁は外壁同様の地元産テラゾーに似た石。シンプルで地味。いわゆる高級ホテルのバーカウンター独特のキラキラ感がなく什器造作も凝ったものではなくシンプルな設えだが、ディテールがとても美しくしっかりと製作され、クオリティーでの存在感がある。造作には B&B/Molteni が採用されていると聞き納得。個人的にはもう少しキラキラ感が欲しい。



## 2F LOUNGE



ラウンジ

### 解放感溢れるラウンジ

L型2面のテラスと面しており、総面積的には半分くらいがテラスで占められ、ロビー、パースペースからの連続した空間となっている。床壁天井の構成は石床、壁 一部木ルーバーがあり天井も塗装と思いきりシンプルではあるが女性デザイナーらしいアットホーム感がありながら、上質感をうまく演出している。一番お安い部屋で一泊約20万円（2017.7）  
自分がこの値段で宿泊することを想像すると、バーカウンター含めもう少しアットホーム感く非日常感が欲しいなといったところ。ミラノのブルガリホテルは一泊約10万円程というところを鑑みると少し割高感を感じる。



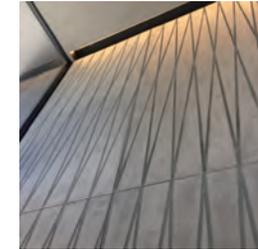
## STAIRWELL 2~1F



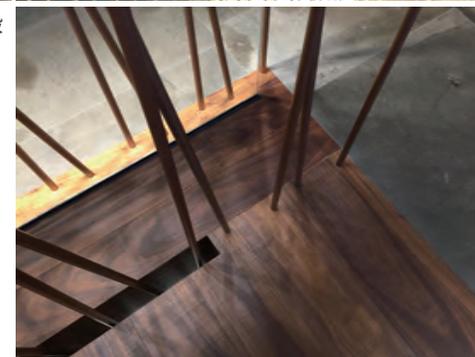
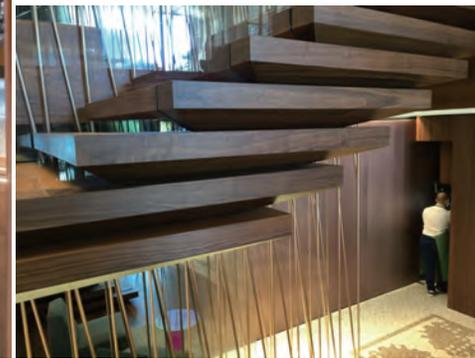
### 浮遊感ある完成度の高い階段

今回内装で一番素晴らしいと感じたのはこの浮遊感ある吹抜階段 ウォールナット無垢材。ステップ部どうしの接地面部分が大きな面取り状になっており、軽快かつ浮いているように見えている。美しい！吹抜け部2層部分に貫通しているガラスと銅パイプとは干渉せず。中に金物の構造体があると思われるが、木ステップ部がどう持っているかが知りたく、見る限り解らなかったのでネットで検索をしたらこの階段はあまりに完成度が高かったためメーカーからウルキオーラデザインの階段として発売されることになっているようで、情報漏洩NGのようだ。横にある椅子はウルキオーラデザインの MOROSO の椅子の試作品。企業と連動してテストドライブを行っている。イタリア企業らしい取組みである。もし気に入れば購入できるそうだ。(約20万/台)

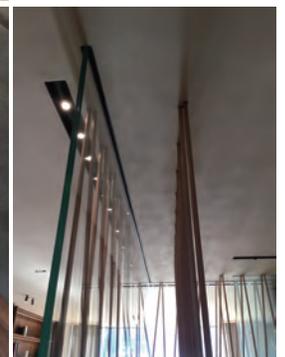
1~2F 吹抜階段



エントランス脇壁面  
階段脇 銅パイプと同意匠と  
なっている。モルタル

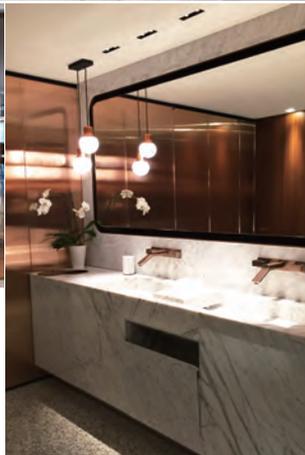


階段ディテール  
ガラスの手すり部分もステップのテーパーに合わせて  
カットされはめ込まれている。





ワインセラー



#### トイレ

仕上げの MATERIAL を最小限に制限しとも統一感がある。天井の DL の配列と同スパンでのペンダント吊り下げ。植栽を含めこういった何気ない配置にセンスを感じる。



レストラン内部

#### アートワークは湖畔の景色

床壁天井の仕上は石、木、塗装とシンプル、壁面含めアートワークひとつ無いが、照明器具のリズミカルな配置と外部ドック、湖畔の景色がアートワークとなり可不足を感じない。小什器もすべてひとつひとつ丁寧にデザインされている。また壁面の石貼り、フローリングの貼り方は定尺貼りや、すだれ貼りといった整然とした貼り方のみの為、家具が有機的なラインであってもバランスが取られ空間の秩序が保たれている。

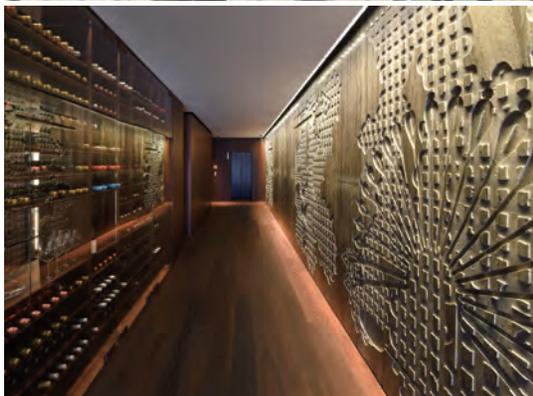
#### ※すべて自然素材

内装に使用されている素材は自然素材のみで、偽物素材はなし。床壁天井自体は石（2種）と木材、銅がメインのシンプルな設え。その為彼女のデザインした形状や色等、個性ある家具がとても際立つ。家具で空間のグレードアップと新しい時代感の表現がとても出来ているように思う。彩度が高い色も使用されているが、エレガントさが失われていないのは配色コントロール - 木色、グレー（石）、銅、黒。家具は景色・ランドスケープと融合すべくグリーン系で統一とし、余計な色を排除することはもちろん床壁天井の MATERIAL 自体の豊かさと融合されているからではないかと感じた。スカルパまではいかないがこのようなピンからキリまでのデザインはデザイナー冥利につき、それ故の全体としての統一感のある完成度の高い物件だと感じた。

## 1F RESTAURANT (OUTSIDE) & CORRIDOR

### 家具での時代性の表現

レストランの大部分の客席がこのテラス席。屋根開閉式。ウルキオーラーがデザインした MOROSO の家具は強く、時代性の表現ともなっているがこのあたりは好き嫌いが分かれるところなのかも。ミシュラン2つ星のレストランの割に少しカジュアル度が高い気もしなくもない。

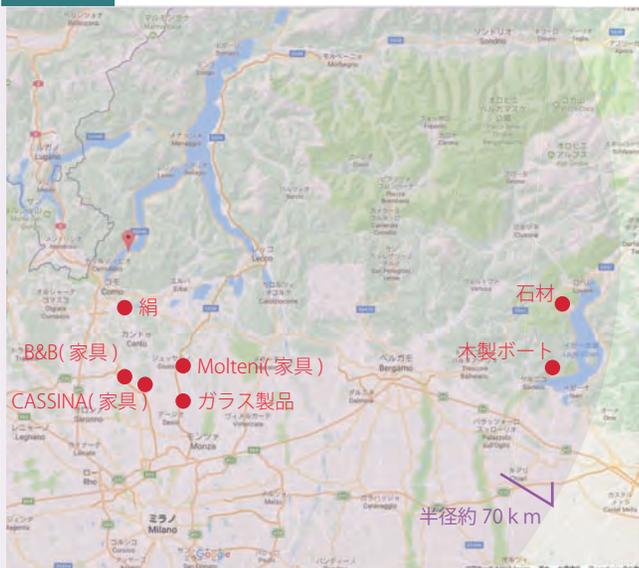


レストランテラス席

レストランと外部テラスを繋ぐ廊下  
片側壁面の石の彫込みレリーフはコモがあるロンバルディア地方の伝統的な女性の櫛をモチーフとしたとのこと。  
使用されている素材と色はナチュラルシンプルだが、模様を入れることにより有機度がUPし空間に即した華やか過ぎず、シンプル過ぎずとても頃合いの良いアクセント壁となっているように思う。  
この辺りの有機的からシンプルまでのボリューム調整がとてもうまい。



# LOCAL PRODUCTION FOR LOCAL CONSUMPTION ~内装における地産地消~



## 半径約 70 km 圏内の使用材

- ・石 A : Ceppo di Gre' / 外壁と内装床に使用
- ・石 B : Pietra di Fossena / 既存のドック使用石。同材使用し修復
- ・ボート : RIVA 社 / イゼオ湖畔
- ・造作家具・家具 : B&B / Molteni&C / CASSINA
- ・ガラス : Grassitalia
- ・絹 / ファブリック / 客室マットレス等 : コモローカル



RIVA 社製ボート

## “可能な限り地元産の物を使用し、また可能な限り地元の職人を使う事”

今回ウルキオーラが設計にあたり、オーナーから2つだけ条件を与えられたそうだ。その内のひとつが

“可能な限り地元産の物を使用し、また可能な限り地元の職人を使う事”

建築と内装を同じ地元の施工業者で行うことは譲れない条件だったようである。

故、建築とインテリアの境界線をあまり感じない一体化された空間になっているように思う。

コモとミラノの間は世界的高級家具メーカーのメッカでもあり、そのこともとても有利に働いた。

またコモは16世紀から絹 / ファブリックの産地として世界的に有名であり、客室リネン、カーペット、スタッフの制服、スカーフに至るまでウルキオーラがデザイン、コモの絹で製作されたとのこと。

造作が Molteni・B&B あたりになると、なにも言わなくても相当グレードの高いものが仕上がってくる。

例えば石目の選択、割付け、貼合せ等、デザインを理解している職人が多いということが

メイドインイタリアの魅力であり、素晴らしいと言われる所以である。

メンテナンス等、先を見通す力は日本のほうが優れているようにも思う。

どちらが良いかは別として、合理主義と美しさの比率では日本よりいつも美しさの比率高めなのがイタリアデザインである。

またイタリアはカトリックの国ということが大きく、元々社会貢献、寄付等の意識が他国より高いが、

ここ十年で私が知る限り企業としてどれだけ社会貢献しているかということへの意識がさらに高まっているように思う。

儲け第一主義はみっともないことであると常識化しており、企業として業界全体のサステナビリティについてどういった形で向き合っているか。

例えば研究開発・技術の情報公開、原発電力の未使用 / 自発電力 100% で運営する工場の設立であったり、売上の数% を地元歴史建造物修復費へ寄付等。

自社だけではなく業界全体で共存共栄する方法の模索意識は残念ながら日本とは比較にならないくらい高い。

日本もフェアウッド、リサイクル素材の使用等、少しずつ意識が高まっているようにも思うが、見習うべき姿勢がまだまだたくさんある。

このホテルも電力エコ認証を取得しているようである。

Cassina

B&B  
ITALIA

Riva

Molteni & C

## DESIGN INSPIRATION FROM REGION LOCAL

~ローカル文化の再構築~

ウルキオーラがデザインの見本としたのは

コモ市内中心部にある1936年竣工のイタリア合理主義建築 (Casa del fascio / ファシズムの家)

全然関係ない場所からのデザインの紐解きではなく、ローカルから生まれた思想と建築物を参考としている。

が結局、とてもウルキオーらしいデザインホテルになっているように思う。

このホテルの主役はあくまでもコモの美しい景観であり、寄り添う形で地元の素材を生かした環境設計となっている。

ローカライズは我々にいつも付きまとう問題ではあるが、世界が均一化しどこの国でも同じような建物や店になりつつある現在

それぞれの土地で培われた文化をいかにデザインに落とし込みどう再構築するかは我々の課題の一つではないか。

コモ湖では伝統あるハイソサイティー文化であるが故、

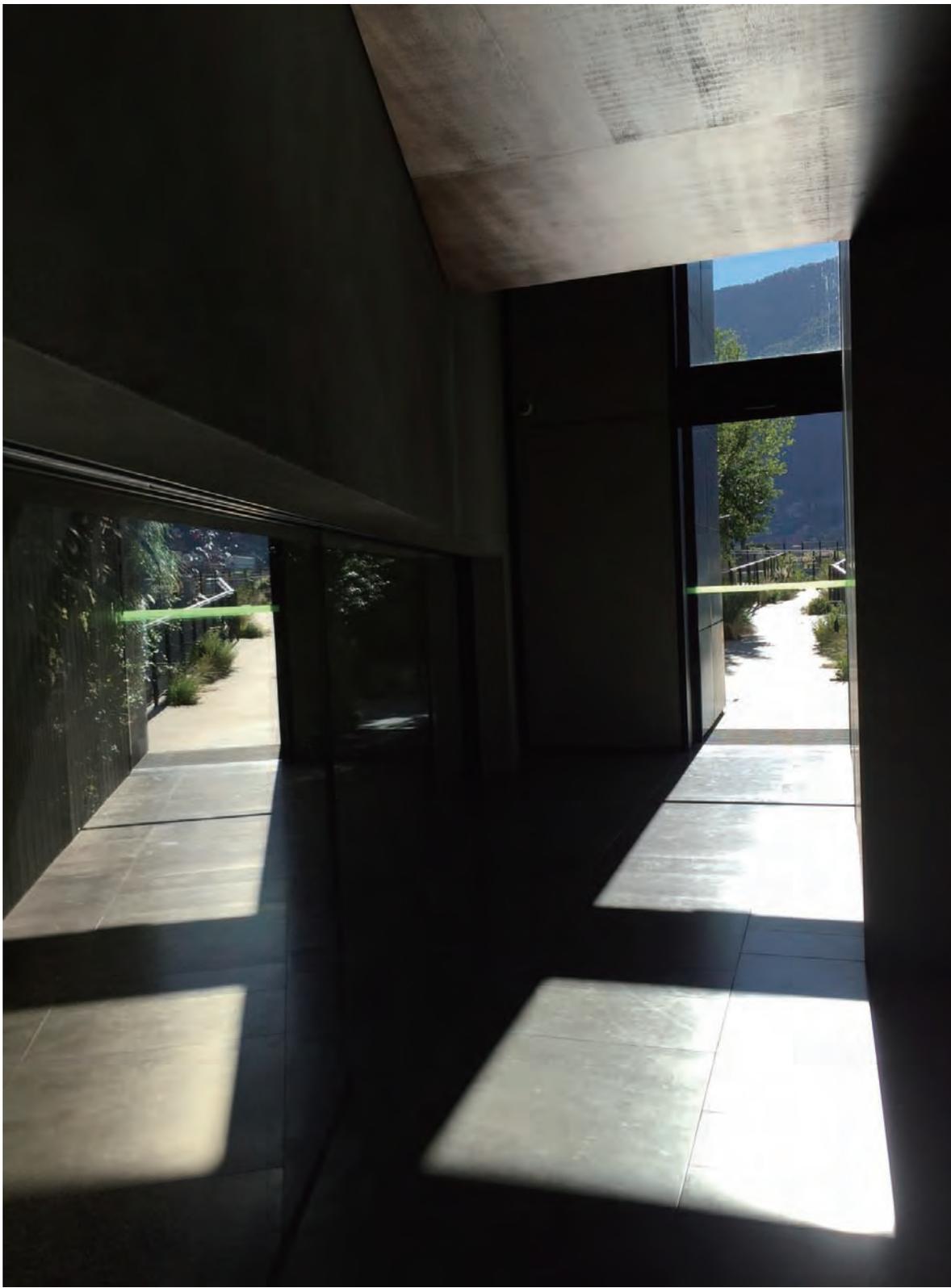
近郊にある殆どのヴィッラ、ホテルなどはルネサンス / 新古典主義デザインの建物・インテリアがスタンダードとなっており、

このエリアでコンテンポラリーデザインに踏み込み、なおかつ地元の文化をうまく取り入れたことは新しいチャレンジの様にも思った。

あとは地域に愛されるという最大かつ最難な問題をクリアすることだろう。それがパーマネントな存在に成り得る最大要因ではないか。



Casa del fascio



DATA Information

Location: Torno Como Italy トルノ コモ州 イタリア

Client / Owner / Developer: Luis Contreras

Architects & Interior Design: Patricia Urquiola

Landscape: Patrick Blanc

新築（一部既存残し）

ROOM : 30 Suite rooms / 65 m<sup>2</sup>~ 200 m<sup>2</sup> Pent House

Open: 2016.8.1

Award: Winner - Category: Hospitality / Resort Hotel (Interior Design Magazine Award)

Elected: Europe' s most Luxurious New Hotel ( Bloomberg)

: Top 30 Best Hotel in the World (Robb Report)

Photo: @Hotel il sereno lago di como / Villa Pliniana Official Site, Seiko Inoue